HOSPITAL

依存症

久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）は精神科領域における高度専門医療を提供しており、特にアルコール依存症の治療に対して長い歴史と多くの実績を有しています。国内における最大のアルコール依存症治療施設であり、かつアルコール依存症研究の中心として学会発表や依存症に関わる人材育成、依存症の情報発信などにも尽力しています。当センターの取り組みや、近年の依存症治療、さらに医師として依存症治療に携わる魅力などについて松下幸生院長にお話を伺いました。

国立病院機構
久里浜医療センター

院長 **松下 幸生**

現代の依存症治療における新たなアプローチと連携体制の強化

国内のアルコール依存症治療をけん引する日本最大の施設

当センターは、277床（一般病床45・精神病床180・医療観察法病床52）を有する、依存症を柱とした高度専門医療を提供している病院です。

私は大学卒業後、慶應義塾大学医学部の精神・神経科学教室に入局し、1988年に当センターに赴任しました。当時、樋口進先生（現・久里浜医療センター名誉院長・顧問）が、患者の毛根を利用したアルコール代謝酵素の遺伝子研究をしており、精神科でも生物学的な研究ができることに面白さを感じたことや、アルコール依存症の方々が治療によって目覚ましく回復する姿に感銘を受け、依存症を専門とする道に進みました。1993年から2年間、「米国国立衛生研究所」においてアルコールの乱用と依存に関する研究にも従事し、帰国後も当センターにおいて依存症の治療と研究に取り組んできました。

当センターは、1963年（昭和38年）に、日本の公的医療機関で初の「アルコール専門病棟」を開設して以来、国内におけるアルコール依存症治療をけん引し続けています。開放病棟における患者の自主性を尊重した治療プログラムは“久里浜方式”と呼ばれ、国内唯一の公的な医療従事者向けのアルコール依存症研修を通して全国に広がり、各地で行われている治療プログラムの基礎となっています。1989年には世界保健機関（WHO）から、日本で唯一の「アルコール関連問題研究・研修協力センター」にも指定されるなど、当センターはアルコール依存症の診療・研究に取り組む日本最大の施設であり、新規患者だけで年間600名の診察を行っています。

他にも、ギャンブル依存症や2011年に日本初の「ネット依存治療専門外来」を開設するなどゲーム障害（インターネット依存）への対応、さらに、うつ病や統合失調症などの精神疾患を対象とした入院設備も完備しています。2021年10月には新病棟を開設し、一人ひとりの症状に合わせた、より柔軟な対応を可能としました。

また、「依存症対策全国センター」として依存症の調査・研究、専門家育成、情報発信、治療法の改善なども積極的に行い、より有効な治療・支援を提供すべく取り組んでいます。

その他、神奈川県の「認知症疾患医療センター」にも指定されており、認知症の早期発見、治療にも尽力しています。

依存症を発症する要因とは？近年は子どものゲーム障害が増加

アルコール依存症の総患者数は横ばい（厚生労働省による患者調査では1996年は4.7万人、2017年は4.6万人）ですが、ギャンブル依存症や近年問題となっているゲーム障害（インターネット依存）など、依存症診療の幅が広がっている分、依存症患者数は増加しています。

依存症の発症にはさまざまな要因があり、一つは衝動性が高いといった性格気質や遺伝的背景など、その人の特性が大きく影響しています。また、ギャンブル依存症の場合はギャンブルにアクセスしやすい生活環境や、ビギナーズラックといった体験も依存症の引き金となります。

さらに、うつ病や不安障害といっ

た精神疾患を抱えている人、虐待といった養育歴の影響や、配偶者からDVを受けている方なども、苦痛や不安から逃れるための自己治療としてアルコール・薬物・ギャンブルに頼ってしまうなど、依存症につながる大きな要因となっています。

ゲーム障害は子どもに多く、昼夜逆転、食事を取らないといった生活の乱れによって、健康にも大きな影響を及ぼします。早いと小学生で依存症となり、入院患者も中・高校生が多く、衝動性が強いADHDなどの発達障害がある子どもは依存症になりやすい傾向があります。

近年、インターネットやスマートフォンの急速な普及によって、それまでにはなかったゲーム障害の患者が生まれるなど、依存症をめぐる状況は大きく変化しています。子どもがスマートフォンを長時間利用すると「脳の発達が阻害される」といわれているなど、20代前半までは脳が成長過程にあるため、刺激や薬物に対して非常に脆弱です。この時期に依存になると将来にわたって大きなリスクを残すことになるため、子どもに対する依存症の啓発や情報発信も近年において非常に重要な取り組みとなっています。

新薬の登場と、断酒から“減酒”へ進化するアルコール依存症治療

アルコール依存症の治療は、自分の思考や行動の癖を把握し、認知（アルコールに対する捉え方や考え方）・行動パターンを整えていくことでストレスを減らしていく「認知行動療法」を中心に、「薬物療法」も並行して行います。

アルコール依存症の治療薬としては、従来、国内では抗酒薬のみでしたが、2013年に飲酒欲求を低減させる薬剤「アカンプロサートカルシウム」が日本でも使用可能となりました。さらに、「入院」と「断酒」による治療に加え、近年は治療の最終目標である「断酒」の達成・継続のための中間目標として飲酒量を低減させる「減酒」という選択肢が加わり、初の飲酒量低減薬「セリンクロ」が2019年に登場するなど、アルコール依存症の治療は大きく進化しています。

ゲーム障害（インターネット依存）の治療も「認知行動療法」が中心となりますが、仮想世界よりも現実生活の楽しさを知ってもらうため、一定期間、インターネット環境やデジタル機器から距離を置くデジタルデトックスを兼ねた「治療キャンプ」も行っています。ギャンブル依存症もそうですが、こうした「行動嗜癖」（精神作用物質ではなく、ある特定の行動や一連の行動プロセスを依存対象とする依存症）の方は、それに代わる楽しみや趣味を見つけることも、大きな治療効果をもたらします。

数ある精神科領域のなかで「依存症」を専門にする魅力とは？

従来、依存症はアルコールや薬物などの物質依存症に限られていましたが、ギャンブル依存症に続いて、2019年にはゲーム障害がWHOによる国際疾病分類の第11回改訂版（ICD-11）において正式に依存症に認定されるなど、依存症の守備範囲は拡大しています。受診していない潜在患者数も多く、さらに「盗癖」「買い物依存」「性依存」など、疾病認定によって治療法を確立していかなければならない依存も多くあり、依存症治療を行うことができる医師はこれからますます重要な存在となるでしょう。

アルコール依存症は、肝臓、消化器、循環器、脳など身体的にも深刻な影響を与え、飲酒による事故もあるため、内科系の他に、整形外科、救急といった多くの診療科や、他機関、多職種、さらに職場でのトラブルの原因にもなるため産業医との連携も重要となります。また、依存症患者は貧困、家庭問題といった生活環境や、うつ病などの精神疾患も大きく影響しており、患者一人ひとりが抱えている病気や問題、生活背景にアプローチすることも依存症の治療をする上で非常に大切となります。

依存症は各診療科、他機関、多職種との連携や患者の生活背景なども含めて幅広く診ていく必要があるため、「依存症を診ることができると、大抵の精神疾患も診ることができる」と依存症に携わっている医師は昔から口を揃えてよく言っています。

依存症は患者本人や家族だけではなく、社会全体にも大きな影響を与える重要な疾患です。アルコール依存症は失業など労働生産性の低下につながり、ギャンブル依存症はお金の問題にも直結し、家庭崩壊や犯罪行為に至るケースもあります。子どもたちに多いゲーム障害は、学業成績の低下や発達途中の脳へのリスクなど、患者数が増えれば将来の日本社会にも悪影響を及ぼします。依存症は社会的損失も大きい病気であり、依存症治療に携わることは、患者や家族を救うだけではなく、社会問題の解決や社会貢献にもつながります。

PROFILE

出身地：東京都
出身大学：慶應義塾大学（1987年卒）
宝物：猫2匹を含めた家族
座右の銘：人間万事塞翁が馬

さらに、依存症は目に見えて回復できる病気であり、患者が劇的に回復し、社会復帰していく過程を間近で見ることは大きなやりがいとなるはずです。

時代の変化と共に依存の守備範囲も拡大しており、また、研究も盛んに行われているなど、依存症治療にはキャリアを重ねても医師として興味が尽きない世界があります。また、依存症治療の専門医療機関は少なく、依存症を専門に携わる医師も少ないため、それだけ一人ひとりが大きく活躍できる分野でもあります。精神科に興味のある方は、依存症にぜひチャレンジしてほしいと思います。

国立病院機構
久里浜医療センター

住所 〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1
WEB https://kurihama.hosp.go.jp

病床数 **277**床　診療科数 **6**科

［診療科目］
内科・精神科・消化器科・リハビリテーション科・放射線科・歯科

久里浜医療センターのある街

横須賀市は、神奈川県の三浦半島に広がる都市であり、歴史と自然が調和する魅力的な街です。古くから港町として発展し、市内には軍港都市としての歴史を物語る遺構が多く残っています。

一方で、自然豊かな風景も大きな魅力です。市内には美しい海岸線や緑豊かな山々が広がり、観音崎や荒崎海岸などでは四季折々の景色を楽しむことができます。近年ではウインドサーフィンやカヤックなど、マリンアクティビティのメッカとしても注目されています。

文化面では、横須賀芸術劇場やアートイベントも充実しており、多くの人々が訪れる観光地としても親しまれています。歴史と自然、そして現代文化が調和した横須賀市は多彩な顔を持つ街です。